## 萩藩絵図方関係年表 (図版編

Щ 田 稔

本稿は、 当館研究紀要第三八号に掲載した、 拙稿「萩藩絵図方関係年表」の図版編である。

治初年の廃止にいたるまでの、 の記事・出典を転載し、適宜、 掲載した図版は、 年表の記事の中から、 絵図方の事業の推移を視覚的につかめるようにした。また、 節目となる事項や作品を対象に選んだ。配列は編年順とし、 各図版には、 藩 該当する年表 政初期から明

末尾に注釈を加えている。

にいえば、絵図には関係文書が備わっている場合が多いことから、互いの存在を常に意識しておくことが肝要である。 記録」に別れて存在している。これらは、 過程で生じたものであり、 ている。また、天保国絵図関係資料の場合、絵図は「毛利家文庫58絵図」に、 図に、 家文庫に含まれている。ところが、例えば元禄国絵図関係資料のように、 ここで年表の出典の存在形態について指摘しておきたい。 郷帳や変地帳は 「6政理」に分類・配架されており、 関係資料の存在を、 何も絵図方関係資料に限ったことではなく、 分類や資料群の枠を超えて確認する必要があることを示している。さら 萩藩絵図方関係資料の大半は、 本来、 一連の資料として作成されたものが別れてしまっ 同じ毛利家文庫内であっても、 郷帳は別の資料群である「県庁伝来旧藩 萩藩の藩政資料の伝来・ 藩政資料を主体とした毛利 絵図は 整理 「 58 絵

萩藩絵図方関係年表

(図版編)

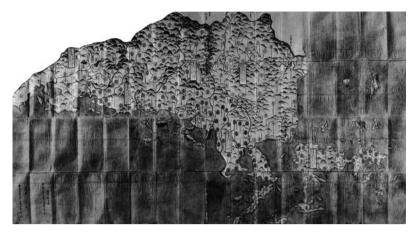
山田田

上記の点を踏まえて、今後も可能な限り関係資料の確認と集約につとめ、年表の増補改訂を進めていきたい。

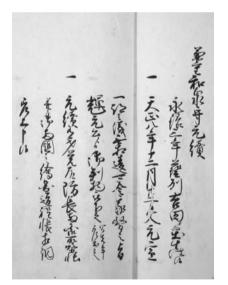
なお、以下は年表の追加・修正分である。「地理図師」の項目は該当記事がないため、ここでは省略した。

元 禄 3		貞享元		貞享元		<b>寛</b> 文 6			寛文3		慶安3		慶安2		寛 永 15	和暦	
1690		1684		1684		1666			1663		1650		1649		1638	西暦	
9				10		10			3		5		8		10	月	
28				13		16			2		20		21		15	日	-
厚母四郎兵衛就種、知行高77石を拝領。		「島々図」折本2(吉就御国廻り以後、諸代官へ防長	て小袖一つを拝領。	厚母四郎兵衛、御国廻り御供を堅固に勤めた褒美とし		厚母四郎兵衛就房病死につき、厚母四郎兵衛就種相続。	れ、四郎兵衛の見習いを命じられる。	図方勤功により、扶持方3人御切米4石にて召抱えら	厚母三左衛門(四郎兵衛就種)、父四郎兵衛就房の絵	帳」2冊(幕府提出分の控)。	「防長国大道小道并灘道舟路之帳」2冊、「御両国石高	応元年6月19日井上筑後守へ提出。厚母四郎兵衛作製。	幕府へ「萩御居城之絵図」1枚を提出。修正があり、承	あり、10月20日に再提出。	国絵図が完成し、井上筑後守へ提出。その後、微修正が	事項	
「譜録 厚母与三房清」(毛33譜録4)		*「防長島々絵図」(県庁旧藩169ヵ)	巻」(毛6巡見事2)	「吉就公初テ御入国之時御国廻り一		「譜録 厚母与三房清」(毛3譜録6)			「譜録 厚母与三房清」(毛3譜録6)	納箱在中	「防長両国大絵図」(毛58絵図238)	入日記	「防長両国大絵図」(毛8絵図238)		「公儀所日乗」(毛19日記46(3の6))	出典	
就種 厚母四郎兵衛	就種	厚母四郎兵衛	就種	厚母四郎兵衛	就房	厚母四郎兵衛		就房	厚母四郎兵衛	門	江木次郎右衛	就房	厚母四郎兵衛			絵図方	

萩藩絵図方関係年表	(2)山﨑一郎「毛利	反映している。	(1) この図版編では、	註			明和元頃 1764			正徳3 1713 6 2		元禄14 1701			元禄12 1699		元禄12 1699 11 20		元禄12 1699 5 22
2保年表(図版編)(山田)	「毛利家文庫の形成過程と文書群構造」(『山口	币	本稿に掲載した年表の追加・修正分を			8年~安永5年、東海道は天明7年~寛政元年)。	街道絵図「行程記」(山陽道)が完成(中山道は明和	家督以後14カ年所勤)。	恒が絵図方に就任する(房信は、嫡子御雇にて9カ年、	<ul><li>厚母四郎兵衛房信、絵図方を退任し、平田仁左衛門敦</li></ul>		「防長変地帳」 2 冊(元禄国絵図関連)			「御絵図書付之控」	※元禄10年から移動	? 「諸国絵図調出候様ニと従公儀被仰渡候覚書」	100石を拝領。	3 厚母四郎兵衛就種、絵図方勤功により23石を加増され
七七	二〇一〇)の「文書群解説」を参照。	所蔵アーカイブズガイド-幕末維新編-』(よ	県文書館研究紀要』第三七号、二○一○)、『山口県文書館		研究』第55号、1986)	の内容と成立時期」(『山口県地方史	和 川村博忠「近世道中絵図『行程記』	$(145 \otimes 23))$	T、 「考績抄御賞美先例」(毛22諸臣179	敦 「譜録 厚母与二房清」(毛3譜録6)、	11政理354)	*「周防国変地帳長門国変地帳」(毛	(毛30地誌31、32)	167、「御両国絵図被差上覚」ほか	*「両国絵図調方沙汰書」(県庁旧藩	被仰渡候覚書」(毛9諸省587)	*「諸国エ絵図調出候様ニト従公儀		れ 「譜録 厚母与三房清」(毛23譜録64)
		(山口県文書館、	『山口県文書館			門敦能	平田四郎左衛		房信	厚母四郎兵衛	房信	厚母四郎兵衛		就種	厚母四郎兵衛	就種	厚母四郎兵衛	就種	厚母四郎兵衛



▽慶長10年(1605)「慶長国絵図 控図(周防国長門国)」【「慶長国絵図 図 (周防国長門国) |、重要文化財、宇部市文化会館蔵】\*図版は周防国。縮尺お よそ43200分の1。167×312cm。幕府への提出を福原広俊が担当した関係で、福原 家に伝来したもの。

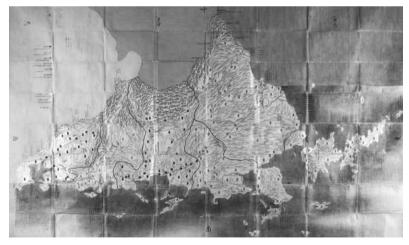




▽元和6年(1620)兼重和泉元続没。享年61歳。譜録に「元続有才覚故、 防長両国御所務帳并御両国之絵図道程帳相調差上申候」とある。【「譜録 兼重五郎兵衛貞連」(毛利家文庫23譜録か74)】\*文政頃の「役人帳」では、兼重 和泉が初代絵図方とされている(年紀不詳)が、「絵図方」の役職名が記された藩 政初期の資料は未見。



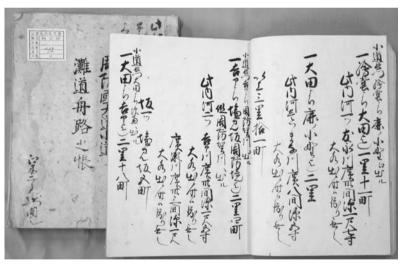
▽正保3年(1646)12月12日 国絵図の清書を江戸の画師八田助左衛門に 依頼する。【「公儀所日乗」(毛利家文庫19日記4(36の16))】



▽**慶安2年(1649)「防長両国国絵図」(正保国絵図)【**「防長両国国絵図」(毛利家文庫58絵図238)**】\***図版は周防国。縮尺21600分の1。330×553cm。木箱入り。

七九

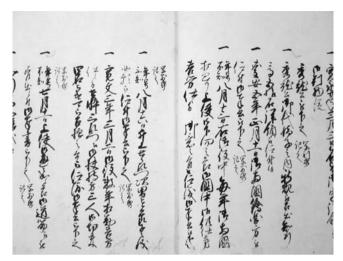
「御両国石高帳 | (周防国・長門国) 2冊



「御両国大道小道灘道舟路之帳」(周防国·長門国) 2冊

▽慶安 2 年 (1649) 8 月20日 曽祢源右衛門へ「御両国石高帳」 2 冊、「御両国大道小道灘道舟路之帳」 2 冊を提出。修正があり、翌年 5 月20日井上筑後守へ提出。江木次郎右衛門作成。【「御両国石高帳」 2 冊、「御両国大道小道灘道舟路之帳」 2 冊(「防長両国大絵図」(毛利家文庫58絵図238)納箱在中)】 \* 正保国絵図の添献上物。幕府提出分の控。

八〇



▽慶安 5 年(承応元年、1652) 1 月11日 厚母四郎兵衛就房、御両国絵図 方に就任。【「譜録 厚母与三房清」(毛利家文庫23譜録あ64)】\*「(御両国)絵 図方」の役職名の初出。以後、絵図方は、四郎兵衛就種、同房信までの3代にわ たって、厚母家に受け継がれた。

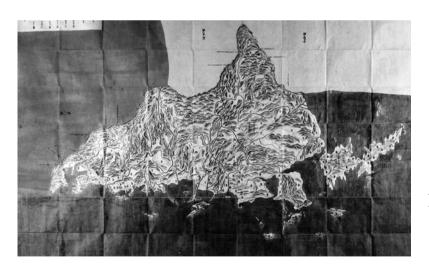


▽承応元年(1652) 6 月19日「御城絵図」 1 枚 (慶安 2 年 8 月幕府提出分の修正版。厚母四郎兵衛が江戸で作製。通常は御宝蔵方に保管)。【「萩絵図」(毛利家文庫58絵図409)】\*正保国絵図の添献上物。273×266cm。

八一

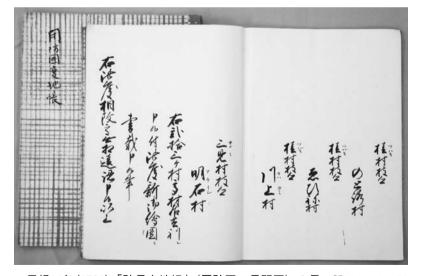


▽貞享元年(1684)10月「島々図」折本2帖(吉就御国廻り以後、諸代官へ防長両国島々絵図の提出が命じられ、各宰判提出の下書を折本に仕立てた分の控)。【「防長島々絵図」(県庁旧藩169)カ】\*1帖が現存。図版は部分。



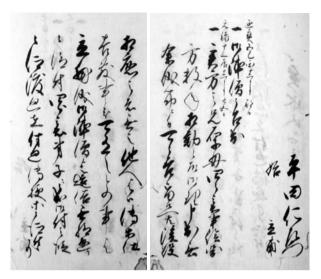
▽元禄12年(1699) 5 月 「周防長門大絵図 (元禄国絵図)」 2 鋪【「周防長門大絵図」(毛利家文庫58絵図246)】 \* 図版は周防国。縮尺21600分の1。400×612 cm。木箱入り。作製背景については、年表の安永元年(1772) 2 月20日条を参照。

▽元禄12年(1699) 5 月22日「元禄十弐年卯ノ五月廿二日絵図二相添被差 出候防長之郷帳」 2 冊。【「周防国郷帳」、「長門国郷帳」(毛利家文庫9政理353)】 \*修正提出分の写しが県庁旧藩287、288にある。作成背景については、年表の安 永元年(1772) 2 月20日条を参照。

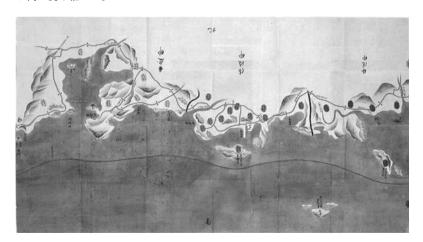


▽元禄14年(1701)「防長変地帳」(周防国・長門国) 2冊。【「周防国変地帳 長門国変地帳」(毛利家文庫11政理354)】\*正保国絵図との変更箇所を記した帳面。 元禄国絵図の添献上物。

八三



▽元禄13年(1700)12月25日 厚母四郎兵衛、絵図方退任の申し出により、 弟平田仁左衛門立甫を御陣僧より還俗して無給通りに加え、四郎兵衛弟 子として見習いを命じられる。【「考績抄御賞美先例」(毛利家文庫22諸臣179 (145の23))】\*絵図方は厚母四郎兵衛の実弟平田仁左衛門が継ぎ、以後、平田家 が代々受け継いた。



▽元禄14年(1701)10月「元禄十四年辛巳十月防長国境縁絵図大公儀被差 上候図控 |。【「周防国海手縁絵図 | ほか(毛利家文庫58絵図235・237・261・ 262 · 263 · 264 · 269 · 342 · 343 · 344、毛利家文庫遠用物近世前期2342、袋入絵図 13・14・30・31・32)】\*図版は「周防国海手縁絵図 |。102×185cm。元禄国絵図 の添献上物。作製背景については、年表の安永元年(1772)2月20日条を参照。

八四

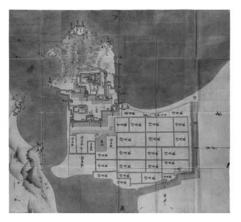


▽元禄14年(1701)「大公儀え御両国縁絵図於江戸国司正左衛門え被仰付被差上候絵図御控、於萩厚母三左衛門被仰付候覚書」 1 袋(元禄14年10月提出の控。修正箇所等は国司正左衛門が知るのみで記録が無いため、参考記録として元禄15年 3 月の厚母三左衛門覚書)。【「御両国縁絵図覚書」(袋入絵図15(2の1))】

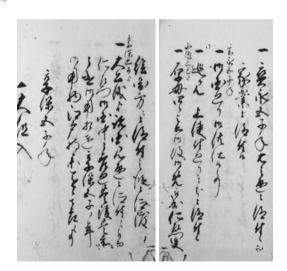


▽元禄15年(1702) 5 月 元禄12年から14年まで公儀提出の絵図(「周防長門国大絵図」、「同山手縁絵図」、「同海手縁絵図」、「同郷帳」、「同変地帳」、「豊前国縁絵図」、「安芸国縁絵図」、「石見縁絵図」)の控を一箱入りにして御宝蔵へ納める。入注文の記入者は厚母三左衛門。【「周防長門大絵図」(毛利家文庫58絵図246)の添付文書】\*図版は冒頭部分。

八五



▽宝永7年(1710)7月5日 「御城絵図」2枚(宝永7年7月5日、津和 野より徳佐へ移動の上使黒川与兵衛・岩瀬吉左衛門・森川六左衛門の要 望で作製。但し、絵図への書込みは少なくするよう指示されたもの。両 国絵図は、別途江戸へ提出)。【〔萩城中並曲内侍屋敷割図〕(毛利家文庫58絵図 801)】\*94×99cm。絵図方は、巡見使や国目付の来藩時には必ず随行を命じられ、 視察先での質問に的確に答えるとともに、要求された各種の絵図を作製する重責 を果たした。



▽正徳3年(1713)6月2日 厚母四郎兵衛房信、絵図方を退任し、平田 仁左衛門敦恒が絵図方に就任する(房信は、嫡子御雇にて9カ年、家督 以後14カ年所勤)。【「譜録 厚母与三房清」(毛利家文庫23譜録あ64)、「考績抄 御賞美先例」(毛利家文庫22諸臣179(145の23))】\*図版は「考績抄御賞美先例」。



▽享保3年(1718)「御両国絵図」1枚(先年より、絵図の村名に間違いがあり、近年は正徳元年幕府提出の郷村帳の通りとされていることから、享保2年、山内縫殿より浦図書・桂三郎左衛門への指示で作製し、同3年、江戸へ提出分の控。江戸御用所御用の絵図)。【「周防長門国高都合色分図」(袋入絵図9)】\*152×245㎝。

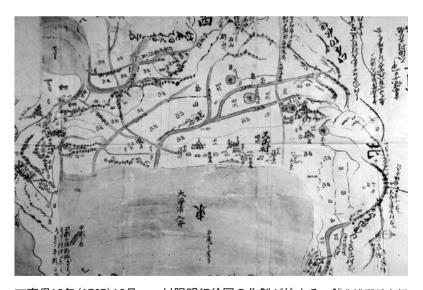


▽享保5年(1720)12月18日 井上武兵衛、絵図方平田仁左衛門一人役により支障があるため、絵図方に就任。但し、家業とはせず。この時より、明細絵図の作製が始まる(井上譜録に「明細絵図発端」と記される)。 【「譜録 井上武兵衛親明」(毛利家文庫23譜録い26)】\*井上は、地理巧者の有馬喜惣太を登用し、一村限明細絵図をはじめとした防長の地誌編纂事業を強力に推し進めた。

八七



▽享保11年(1726) 石高・境目・由来書(地下上申)、寺社旧記(寺社由 来) の作成が始まる。【(左)「吉敷郡山口宰判宮野村石高付由緒書」(寛延元年 9月、地下上申488)。(右)「吉敷郡山口宰判宇野令臨済宗常栄寺由緒」(安永7年 6月、寺社由来796)】\*『防長地下上申』全4巻(山口県地方史学会、1978~ 1980)、『防長寺社由来』全7巻(山口県文書館、1982~1986)として刊行。



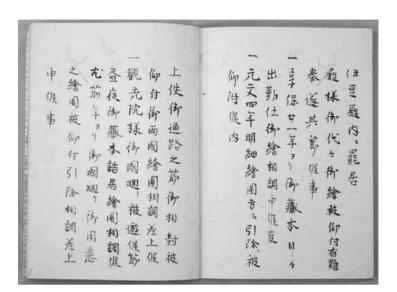
▽享保12年(1727)12月 一村限明細絵図の作製が始まる。【「豊浦郡長府領 八道村地下図|(地下上申絵図1212)ほか】\*一村限明細絵図(地下上申絵図)は 防長両国全域に及ぶ一村ごとの村絵図。地下図458枚、清図377枚、副図157枚、帙 56点、合紋図2枚が現存。図版は、「吉敷郡大海村地下図」(地下上申絵図555、 享保13年、部分、49×146cm)。

「吉敷郡吉田村清図」【地下上申絵図521】 \*63×42cm。清図は、絵図方が地下図の様式を整えて清書したもの。村境に沿って切り抜かれた形状が特徴。縮尺は3600分の1。吉敷郡、大津郡、美祢郡の清図は有馬喜惣太が作製しており、出来映えが群を抜いている。



「吉敷郡村絵図合紋図」【地下上申絵図492】\*37.5×57.5cm。清図は、郡単位で接合が可能。合紋図は、その接合の仕方を示したもの。合紋図は、吉敷郡と玖珂郡(「周防国玖珂郡岩国領村敷図」(袋入絵図54))が現存。

八九



▽元文4年(1739) 松田等叔景明、明細絵図方へ引除所勤中、巡見上使の対応を命じられ、御両国絵図を作製。元文4年より宝暦元年まで13カ年の間、日々明細絵図方へ出勤する。【「譜録 松田等叔景明」(毛利家文庫23譜録ま54)】 \*松田等叔は、寛保2年(1742)の毛利宗広の御国廻りに備えて、昼夜御蔵本に詰めて絵図を作製している。雲谷派画師と絵図方事業の関わりを示す事例。



▽寛保 2 年 (1742) 9 月 有馬喜惣太、「御国廻御行程記」 7 帖を作製。 【「御国廻御行程記」(毛利家文庫30地誌57)】\*毛利宗広の御国廻りに際して作製 された萩藩最初の街道絵図。縮尺5600分の1。街道沿線の寺社の解説書として、 「寺社旧記」(毛利家文庫12社寺120) 7 冊を同時に作成。

九〇



▽宝暦12年(1762)9月29日 有馬喜惣太、寺社組に加えられ、郡方定居にして御国中御蔵入給領などの境界を、場合によっては絵図等を作製して明確にさせ、代々その仕事を怠りなく行うよう命じられる。【「譜録 有馬喜惣太武春」(毛利家文庫23譜録あ103)】】\*有馬喜惣太は才能を見込まれて享保7年(1722)絵図方御雇となり、「一村限明細絵図」、「御国廻御行程記」作製などの実績が認められ、宝暦12年「郡方地理図師」として藩士に登用された。以後、同職は有馬家の家業として引き継がれた。



▽宝暦12年(1762) 有馬喜惣太、小瀬から芸州吉田までの「行程記」1 帖を作製。【「芸州吉田行程記」(福尾猛市郎収集史料22)。山田稔「『芸州吉田行程記』について」(『山口県文書館研究紀要』第33号、2006)】\*縮尺7800分の1。図版は郡山部分。特に郡山周辺の由来書や注記は詳細。

九一



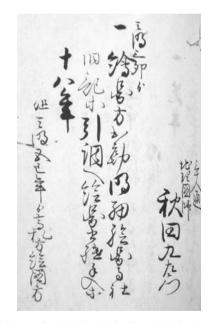
▽明和元年(1764)頃 街道絵図「行程記」(山陽道)が完成。【「行程記」 (毛利家文庫30地誌41)。川村博忠「近世道中絵図『行程記』の内容と成立時期」 (『山口県地方史研究』第55号、1986)】\*図版は山口部分。行程記は萩~江戸間の 全23帖。山陽道のほかに中山道が明和8年(1771)~安永5年(1776)、東海道が 天明7年(1787)~寛政元年(1789)の成立と推定されている。縮尺7800分の1。



▽明和4年(1767)6月4日 防長土図、有馬喜惣太の預りとし、萩城御矢倉に保管される。出火の節は、喜惣太が御蔵元まで出頭し、両人衆へ連絡の上、郡方で待機すること、足痛で出頭できない場合は世倅八兵衛を代理とするよう命じられる。【「御当職所日記」(毛利家文庫19日記22(178の11))】\*図版は「防長土図」(重要文化財。山口県立山口博物館蔵)。藩政時代は「御両国張貫図」とも呼ばれていた。縮尺25920分の1。垂直倍率約5倍。本土17個・島々92個の模型と、収納用の長持3竿、櫃1合が現存。

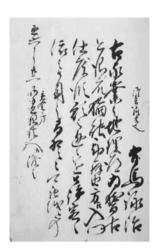
九一

▽安永元年(1772)2月20日 御宝蔵保管の元禄12年~14年幕府提出の御両国大絵図、縁絵図、御石高帳類、安芸石見豊前御取替之図、来状等の写は、明和6年5月御用のため江戸に移されていたが、安永元年2月類焼により焼失したため、絵図方保管の控を参考にして復元される。平田仁左衛門、寛政3年2月入注文に経緯を記す。【「考績抄御賞美先例」(毛利家文庫22諸臣179(145の59))、「周防長門大絵図」(毛利家文庫58絵図246)の添付文書】\*図版は添付文書の末尾部分。

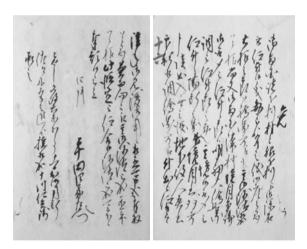


▽天明3年(1783) 三十人通地理図師秋田九左衛門、絵図方へ出勤し、 以後18年間にわたり、明細絵図、寺社旧記等の作製並びに絵図の書継ぎ や手入れ等に従事する。【「考績抄御賞美先例」(毛利家文庫22諸臣179(145の59))】 \*「明細絵図」(一村限明細絵図、地下上申絵図)は、宝暦5年(1755)頃、概ね完成したと見られるが、その後も継続して作製されたことを示す資料。

九三

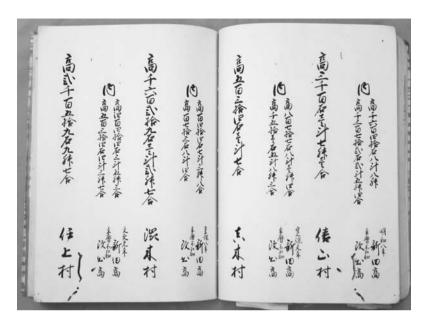


▽文化14年(1817)6月22日 有馬詠次、家業の地理道稽古のため、公儀 衆伊能勘解由方への入門を許可され、御用の間合間合に参ることとなる。 【「御意口上控」(毛利家文庫38御意控15(43の39))】\*有馬喜惣太の孫詠次(治)が伊能家で修行していたことを示す資料。ちなみに詠次は文政2年(1819)閏4月にも修行を許可されている。



九四

▽文政6年(1823)4月 平田四郎左衛門、添石の際は絵図方へ通知し、 隣村境争論の際はその場所の図並びに境目書を地下役人押印の上、絵図 方へ提出するよう藩府に願い出る。【「諸沙汰物御書渡類」(毛利家文庫9諸省 149(6の1))】\*絵図方の業務が十分に浸透しなかったことを示す事例。ちなみ に、同年7月、御両国明細絵図に関して、村境変更等の際の絵図方への届出を怠 らないよう郡奉行高杉小左衛門から各代官へ指示されている。



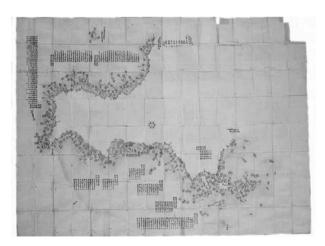
▽天保5年(1834)11月9日 幕府勘定所へ周防国長門国郷村高帳を提出 する。【「周防国長門国一円郷村高帳」(県庁旧藩295)】



▽天保8年(1837)6月3日 幕府へ御両国絵図(周防国6巻、長門国7巻)を提出する。【「御両国絵図」(毛利家文庫58絵図244)】\*図版は、周防部を接合したもの。縮尺21600分の1。接合時324×616cm。巻物状で木箱入り。

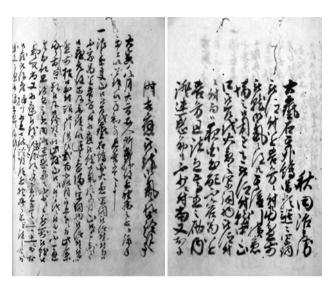
九五

▽天保13年(1842)4月2日 絵図方平田弥次(二)兵衛・地理図師秋田次 兵衛、羽賀台町数を測量する。【「講武秘策二」(毛利家文庫15文武40(15の2))】 \*翌日、蔵本両人が絵図方から「羽賀台之図」を提出させている。絵図方が、天 保14年1月の羽賀台大操練の準備に関わっていたことを示している。

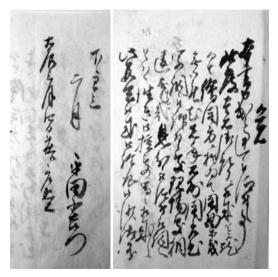


▽弘化3年(1846)12月10日 異賊防禦に関して、南海方面の防備調査を完了し、幕府へ南北両海岸の防備大絵図を提出する。【「長門国周防国海岸村別里数浅深絵図」(袋入絵図29)】\*261×349cm。幕末の動乱期には、海防や幕長戦争などの緊急事態に即応した絵図を作製するなど、絵図方の存在は不可欠なものとなっていた。

九六

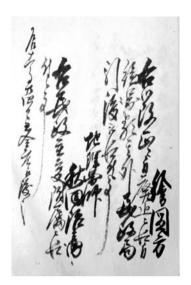


▽慶応2年(1866)8月22日 秋田治兵衛、芸石絵図写し取り等の急務遂行に対する褒賞を検討される。【「奉書控」(毛利家文庫37奉書37(5の4))】\*地理図師秋田次兵衛が、幕長戦争に関連した絵図作製に従事したことを示す資料。



▽明治元年(1868) 3月4日 平田小右衛門、豊石預り地の絵図面作製のため、現地調査を許可される。【「諸記録綴込」(毛利家文庫32部寄16(19の3))】

九七



▽明治元年(1868)11月24日 絵図方を廃止して、絵図類その他は民政局 へ引き渡し、地理図師秋田治兵衛を民政主事附属とする。【「御改正一件」 (毛利家文庫9諸省278(3の1))】\*役職としての「絵図方」の廃止。



▽明治3年(1870)5月21日 絵図方平田小右衛門、地理図師有馬平太・ 秋田治(次)兵衛の家業を解き、平士とする。【「御改正一件」(毛利家文庫9 諸省278 (3の3))】\*この時、萩藩の大半の「家業」が解かれた。

九八